
知的障害特別支援学校 国語科の実施状況調査結果

アンケートについて

○ 調査目的

知的障害特別支援学校における国語科の学習について、全国的な調査を通してその実施状況等を把握し、学校研究のさらなる充実につなげる。

○ 調査期間

令和5年2月20日～令和5年3月31日

○ 調査対象・方法

文部科学省学校が公表している学校コード一覧において、学校種が「E1養護」に区分されている981校（本校・分校）に質問紙を郵送した。

○ 形式

・選択式と自由記述

○ 回答方法

・調査用紙に記入のうえ返送、もしくは調査用紙に記載されたQRコードを読み込みWeb回答
・主幹教諭・部主事もしくは教務主任が回答するよう依頼した。

アンケートについて

- 集計方法
 - ・単純集計

- 研究協力に対する倫理的配慮

調査依頼書及び調査用紙において、本アンケート調査の趣旨を説明するとともに、①調査への参加は任意で不参加の場合でも不利益が生じないこと、②個人情報の取扱いを厳正に行うこと、③調査に参加した学校を特定できるような情報公開を行わないことの説明を行った。

- その他

複数の類型や学年によって実施状況が異なる場合は、教科別の指導である国語の配当時数が最も多い類型・学年について回答するよう依頼した。

アンケートの質問項目

質問		回答(□に✓をご記入ください)
Q1【授業時数の配当について】 時間割上に「国語科」の授業時数を配当していますか？		<input type="checkbox"/> はい(週当たり_____時間) <input type="checkbox"/> いいえ(各教科等を合わせた指導で実施) <input type="checkbox"/> いいえ(自立活動に替えている)
Q2【指導計画の作成について】 年間指導計画を立てる際に工夫していることがありましたら教えてください。(複数回答可) ※回答欄の「内容」は学習指導要領で示されている指導事項のことを指しています。以下、同様。		<input type="checkbox"/> 教科別の指導「国語」ですべての内容を取り上げている →(_____)年間ですべての内容を取り上げている <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導を含めて、すべての内容を取り上げている →(_____)年間ですべての内容を取り上げている <input type="checkbox"/> 軸となる言語領域を設定し、重点的に取り上げている <input type="checkbox"/> その他(_____)
Q3【指導内容について】 学部在籍期間中(6年間)で学習指導要領の「内容」をどのくらい取り上げていますか？	知識・技能	<input type="checkbox"/> 半分未満 <input type="checkbox"/> 半分 <input type="checkbox"/> 概ね <input type="checkbox"/> すべて
	聞く・話す	<input type="checkbox"/> 半分未満 <input type="checkbox"/> 半分 <input type="checkbox"/> 概ね <input type="checkbox"/> すべて
	書く	<input type="checkbox"/> 半分未満 <input type="checkbox"/> 半分 <input type="checkbox"/> 概ね <input type="checkbox"/> すべて
	読む	<input type="checkbox"/> 半分未満 <input type="checkbox"/> 半分 <input type="checkbox"/> 概ね <input type="checkbox"/> すべて
Q4【採択している教科書について】 教科書として採択している教材をすべて教えてください。(複数選択可)	検定済教科書 (小学校)	採択(<input type="checkbox"/> 同学年 <input type="checkbox"/> 下学年) <input type="checkbox"/> 採択なし
	著作本(星本)	<input type="checkbox"/> 採択(<input type="checkbox"/> ☆4~5 <input type="checkbox"/> ☆1~3) <input type="checkbox"/> 採択なし
	一般図書 (附則9条本)	<input type="checkbox"/> 採択 <input type="checkbox"/> 採択なし 【採択している図書名(代表的なもの)】
Q5【教科書の活用について】 実際の授業ではQ4の教科書を使用していますか？(教科書等を参考に授業を計画、自作教材を作成する場合があります)		<input type="checkbox"/> 活用していない(教師・児童共に活用していない) <input type="checkbox"/> 活用していない(教師のみ活用している) <input type="checkbox"/> 特定の学習で児童・教師が活用している <input type="checkbox"/> 多くの学習で児童・教師が活用している
Q6【評価方法について】 評価するにあたっては、どの評価方法を用いていますか？(複数選択可)		<input type="checkbox"/> 筆記試験(ペーパーテスト等) <input type="checkbox"/> 実技試験(音読等) <input type="checkbox"/> 行動観察 <input type="checkbox"/> 成果物(ワークシート等) <input type="checkbox"/> その他(_____)

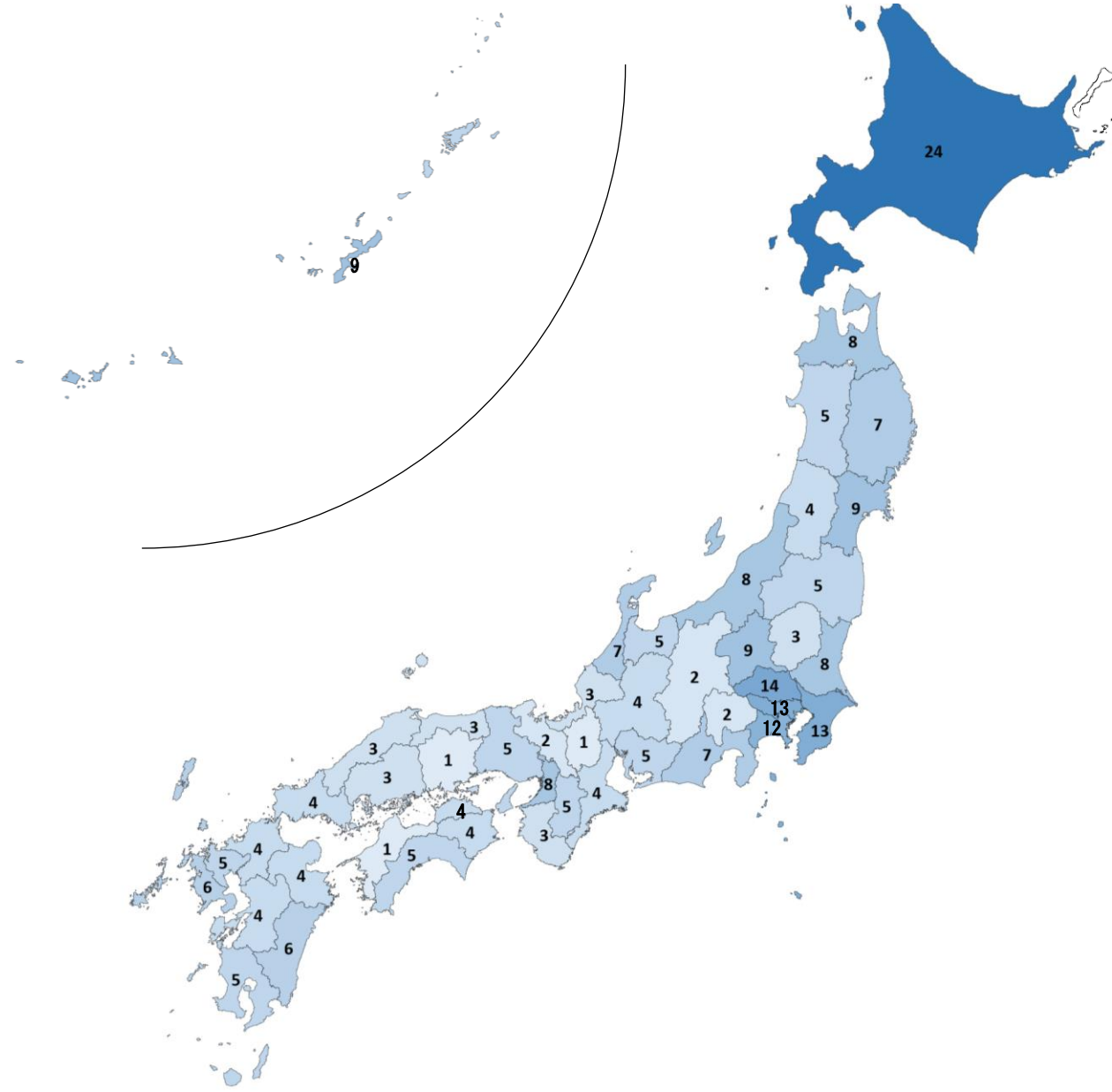
上記質問を学部ごとに回答するよう依頼した(朱書き下線箇所は学部によって異なる)

アンケートの回答状況について

○ 有効回答率：28.1% (276校/981校)

都道府県別回答数(回答数順)

北海道	24	長崎県	6	岐阜県	4
埼玉県	14	兵庫県	5	大分県	4
千葉県	13	富山県	5	香川県	4
東京都	13	奈良県	5	栃木県	3
神奈川県	12	佐賀県	5	鳥取県	3
宮城県	9	福島県	5	広島県	3
群馬県	9	高知県	5	福井県	3
沖縄県	9	愛知県	5	和歌山県	3
大阪府	8	鹿児島県	5	島根県	3
青森県	8	秋田県	5	長野県	2
茨城県	8	福岡県	4	京都府	2
新潟県	8	徳島県	4	山梨県	2
静岡県	7	山口県	4	愛媛県	1
石川県	7	三重県	4	岡山県	1
岩手県	7	熊本県	4	滋賀県	1
宮崎県	6	山形県	4		



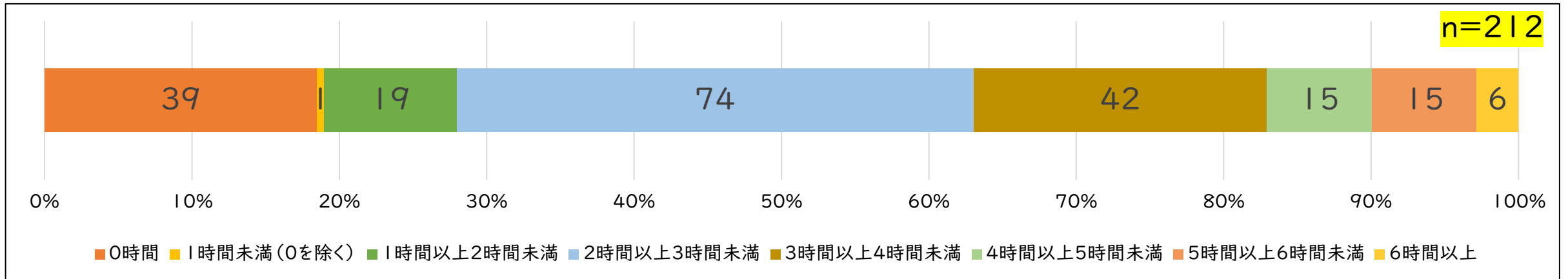
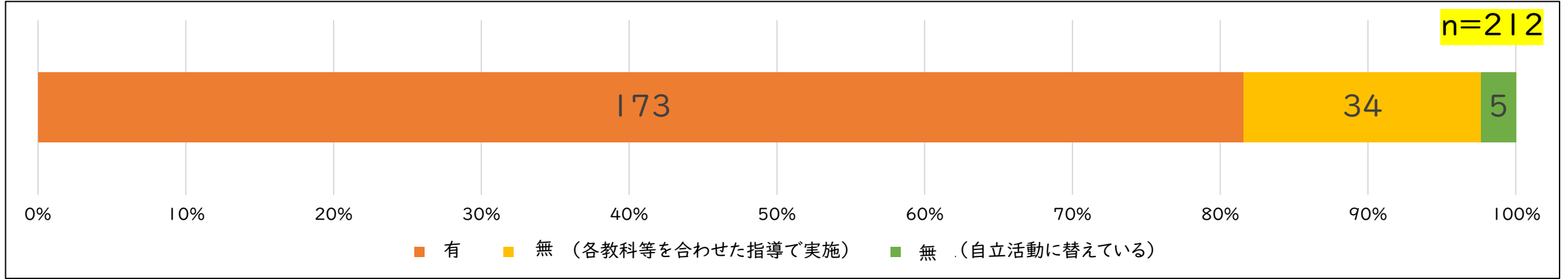


小学部



【授業時数の配当について】

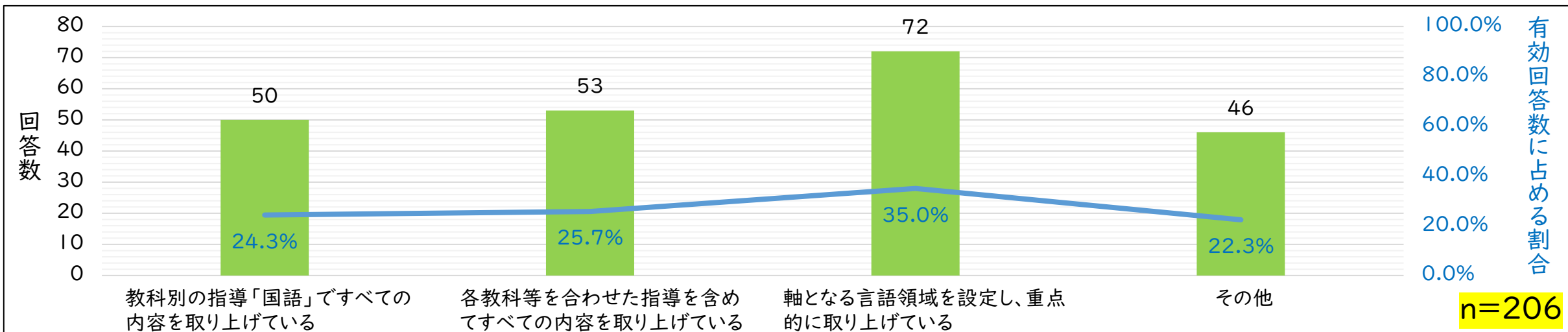
教科別の指導としての国語の実施の有無と配當時数について (選択式)



教科別の指導として国語を設定している学校は81.6%で、その配當時数の平均は2.28時間であった。

【指導計画の作成について】

年間指導計画を立てる際に工夫していることについて (選択式・複数回答可)

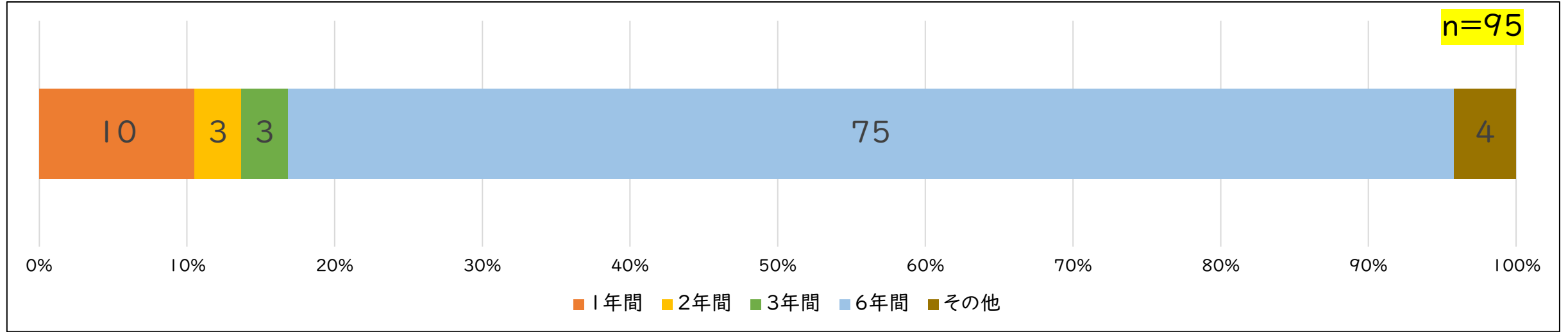


その他・自由記述 (抜粋)

児童に実態に応じて必要な内容を取り上げている (多数)	実生活に役立つもの
実態に合わせた題材選定	1・2年は1段階、3・4年は2段階、5・6年は3段階を目安に、実態に応じて作成している。6年間で内容を取り上げている。
すべての内容を取り上げるよう努めている	「国語」の内容を基に年間指導計画を立てつつ、学部シラバス育てたい力と個々の実態を考慮して指導計画を立てている。
学習グループの実態に合う段階を想定し、その中から必要な内容を取り上げている	学校として育む資質・能力と関連づける
各教科等を合わせた指導を含めて、すべての内容を取り上げられるよう努力している	児童の習熟度に合わせて、すべての内容を取り上げている
各教科等を合わせた指導を含めて、各領域から実態に合った内容を取り上げている	生徒の実態に合わせて偏りなく内容を取り上げている

指導の形態を問わず、全ての内容を取り上げている学校が半数程度あった。一方、児童の実態に応じて(部分的に)内容を配列・組織している学校が半数程度みられた。

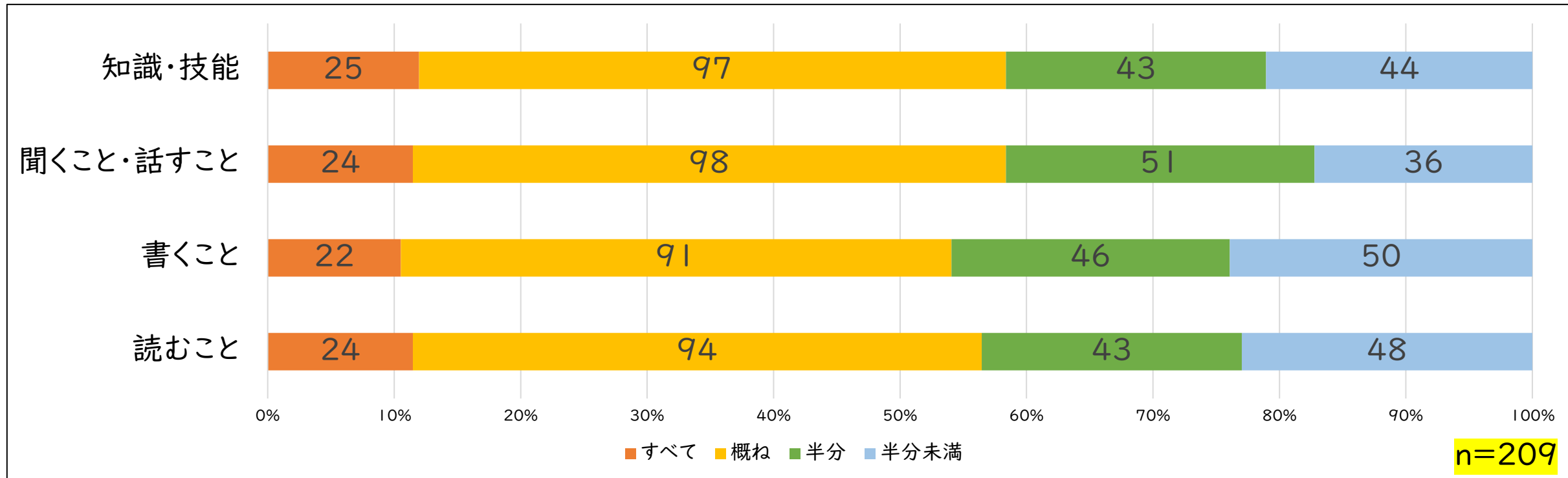
【指導計画の作成について】（「すべての内容を取り上げている」と回答した学校より）
すべての内容を取り上げるために計画している期間について（選択式）



学習指導要領が示している内容をすべて取り上げるのに、6年間かけている学校が多かった。

【指導内容について】

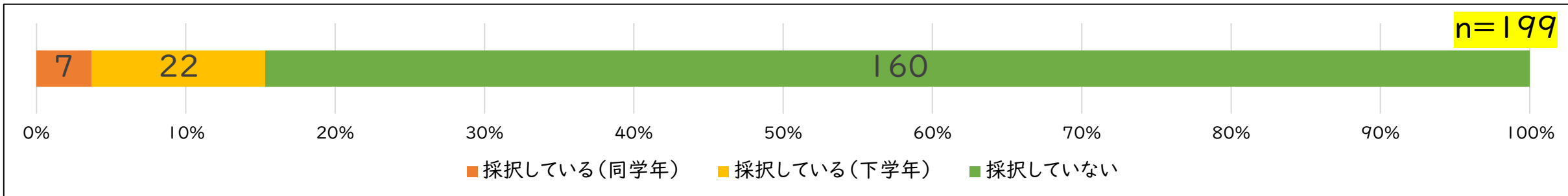
在籍期間中に学習指導要領の「内容」を取り上げている程度について(選択式)



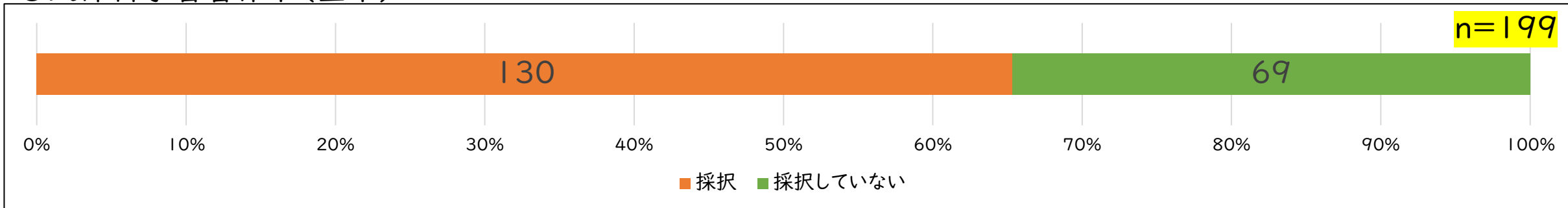
- ・「すべて取り上げている」「概ね取り上げている」との回答は、各内容・領域で54~56%であった。
- ・「すべて取り上げている」「概ね取り上げている」との回答が最も多い事項は「知識及び技能」「聞くこと・話すこと」で、最も少ない事項は「書くこと」であった。

教科書の採択について (選択式・複数回答可)

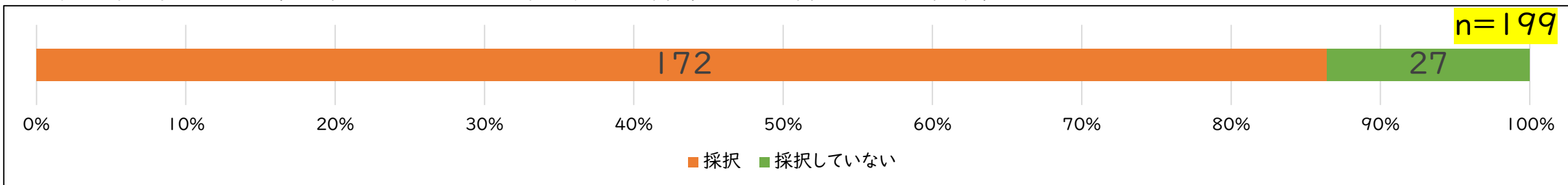
○検定済教科書(検定本)



○文部科学省著作本(星本)

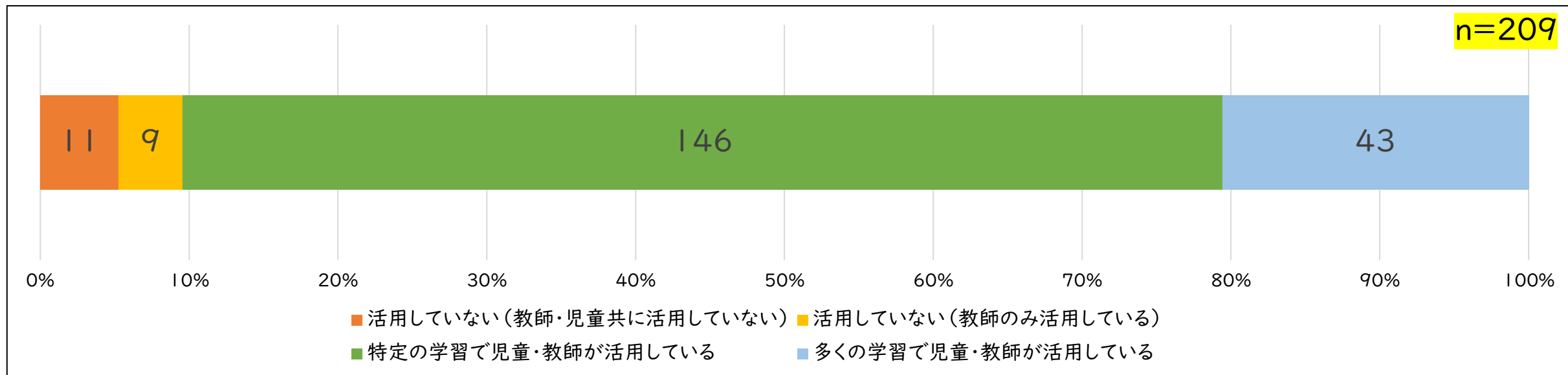


○学校教育法附則第9条の規定による教科用図書(一般図書;附則9条本)



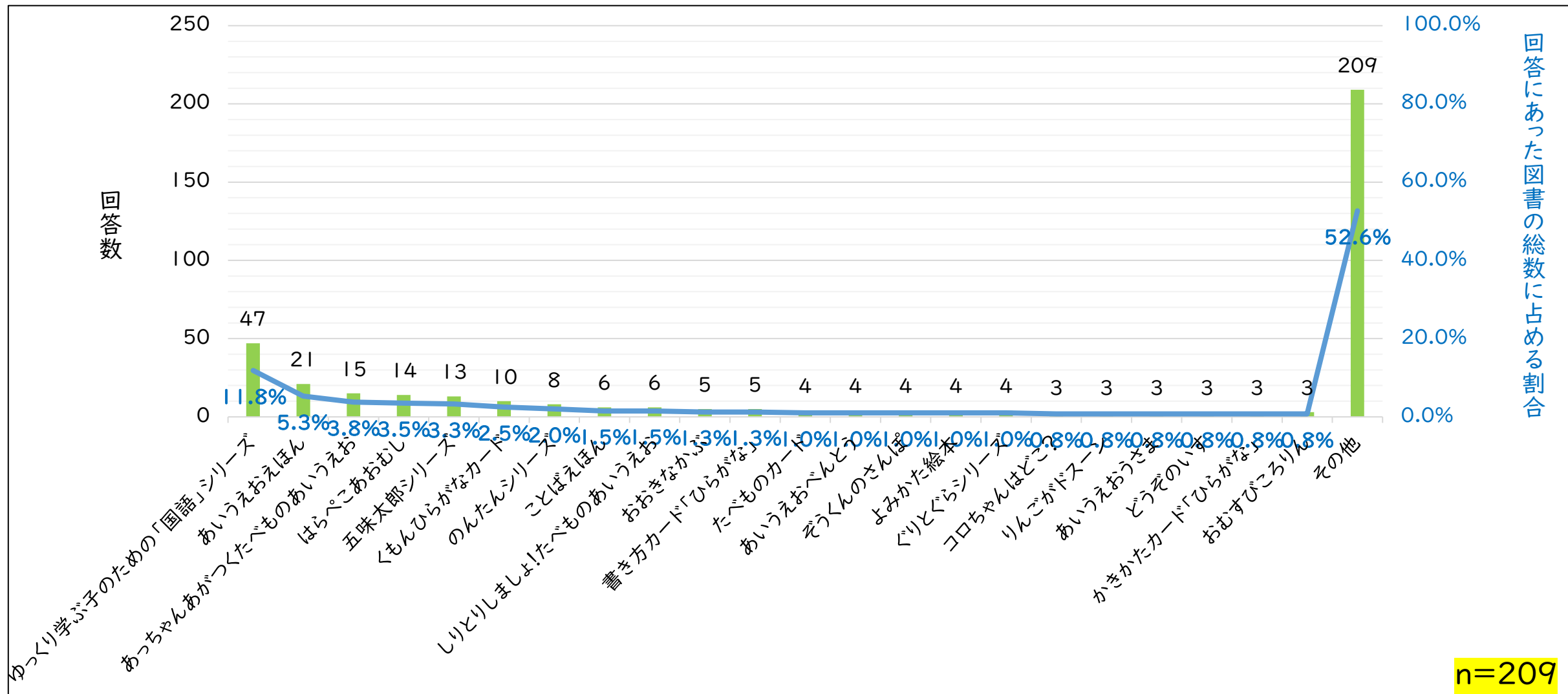
附則9条本を採択している学校は86%で最も多く、次いで星本を採択している学校が65%であった。

教科書の活用状況について (選択式)



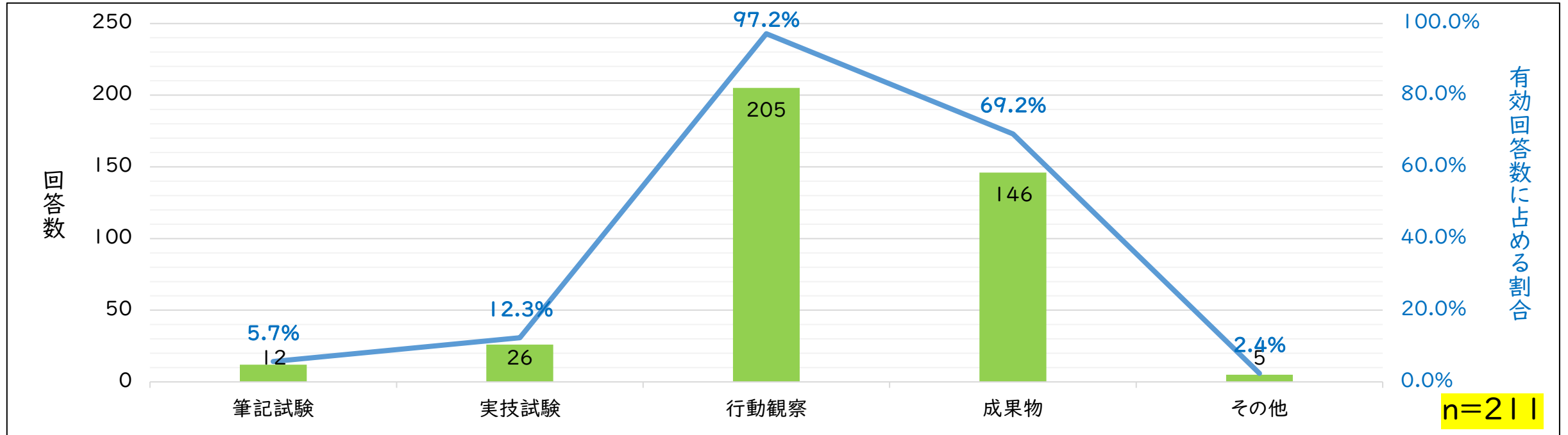
特定の学習で児童・生徒が活用していると回答した学校が70%で、他の選択肢を大きく上回っていた。

附則9条本（一般図書）について （記述式・複数回答可）



- ・回答数が上位（回答数3以上）の一般図書は22冊で、それらをすべて合わせると47%だった。
- ・回答数が1～2の一般図書が半数を占めており、194冊が回答されていた。

学習評価の方法について (選択式・複数回答可)



その他・自由記述 (抜粋)

特別活動の司会や発表の場面
 対応の会話スキル
 標準化されたアセスメント
 ICT端末

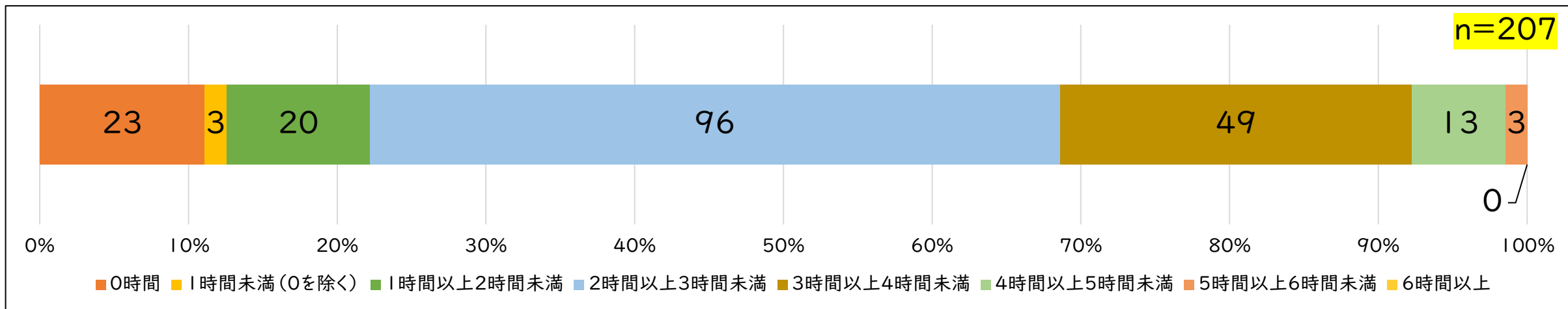
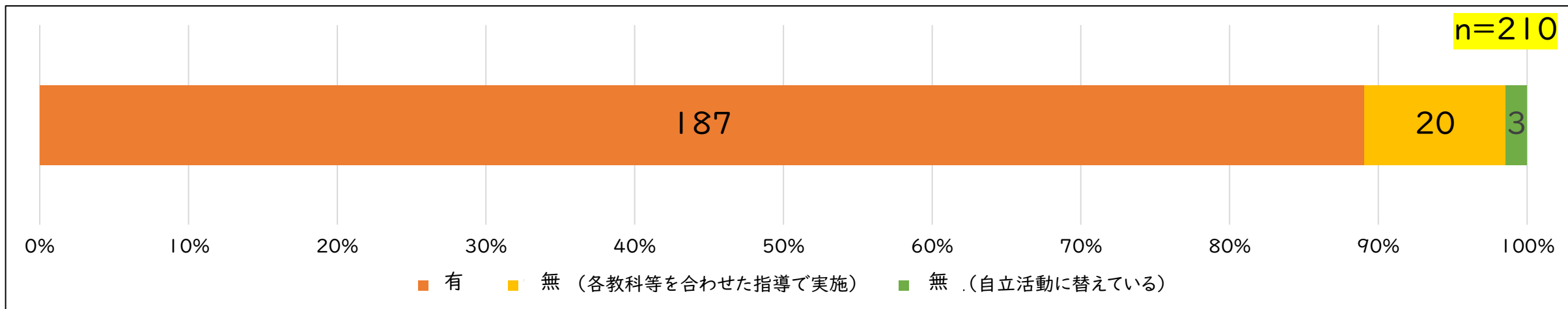
日常生活でのあいさつ
 発言・発表
 授業への取り組みの意欲・態度

- ・行動観察による評価はほぼすべての学校で行われており、成果物による評価も70%程度の学校で行われていた。
- ・筆記試験や実技試験による評価はほとんど行われていなかった。

中学部

【授業時数の配当について】

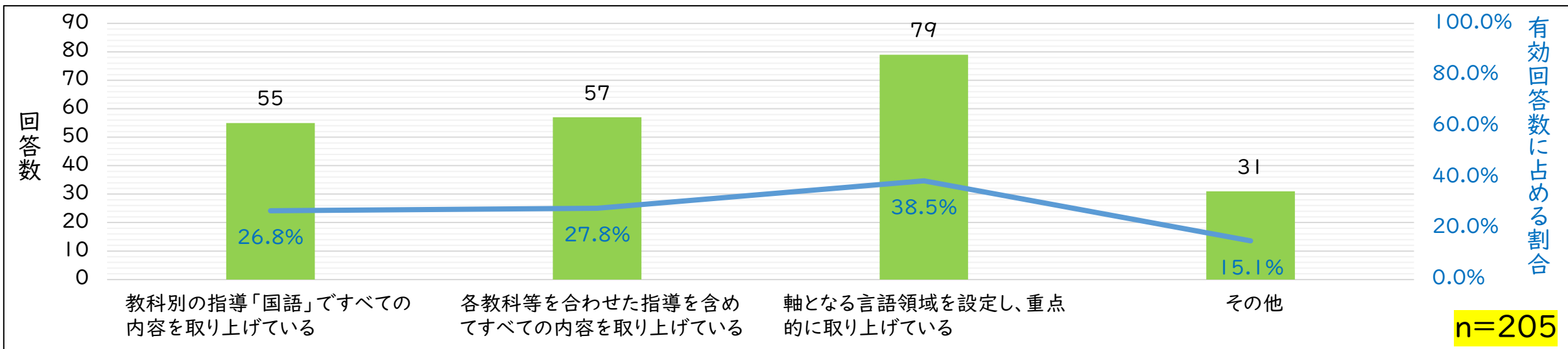
教科別の指導としての国語の実施の有無と配當時数について (選択式)



教科別の指導として国語を設定している学校は81.6%で、その配當時数の平均は2.12時間であった。

【指導計画の作成について】

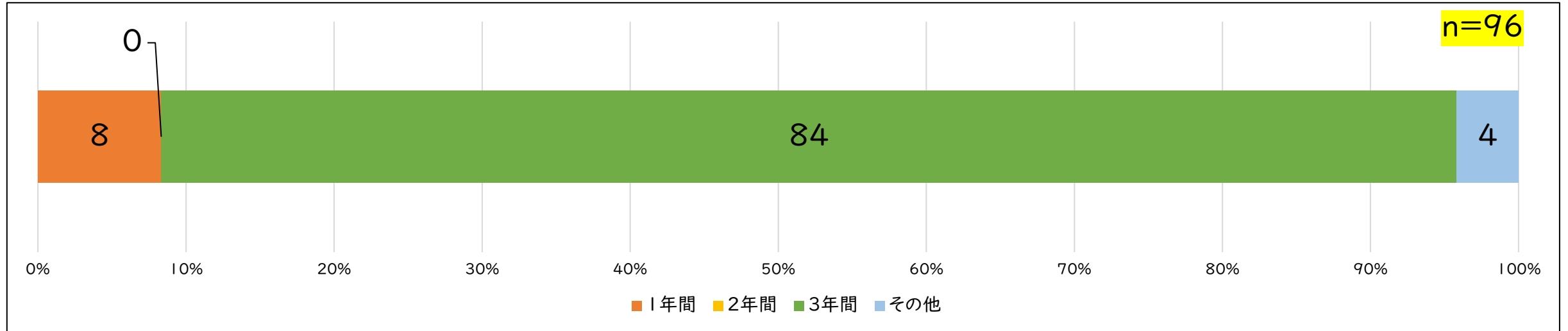
年間指導計画を立てる際に工夫していることについて (選択式・複数回答可)



その他・自由記述(抜粋)	
生徒の実態に応じて必要な内容を選んで取り上げている	現在、星本に合わせた年計を検討中。3年間で実施できるようにする。
発達段階に合わせ、3年計画で年計を作成している	学校として育む資質・能力と関連づける
各教科等を合わせた指導を含めて、各領域から実態に合った内容を取り上げている	自立活動の指導内容から集団の最大公約数的な部分を抽出して設定している
段階別に各内容の指導を行っている	3年間で1段階についてはほぼ全ての内容を取り上げている
学習指導要領の内容をふまえ、児童の実態に合わせて個別に対応している	教科別「国語」で各グループの実態に合わせ3年間でできるだけ多くの内容を取り上げている
年間で4領域を網羅できるように計画はしているが、内容については生徒の実態に応じて取り上げるようにしている	各教科等を合わせて生活と関連付け、興味関心を持ちやすくすることで国語科の内容を網羅するようにしている
実生活に役立つもの	

指導の形態を問わず、すべての内容を取り上げている学校が半数程度あった。一方、児童の実態に応じて(部分的に)内容を配列・組織している学校が半数程度みられた。

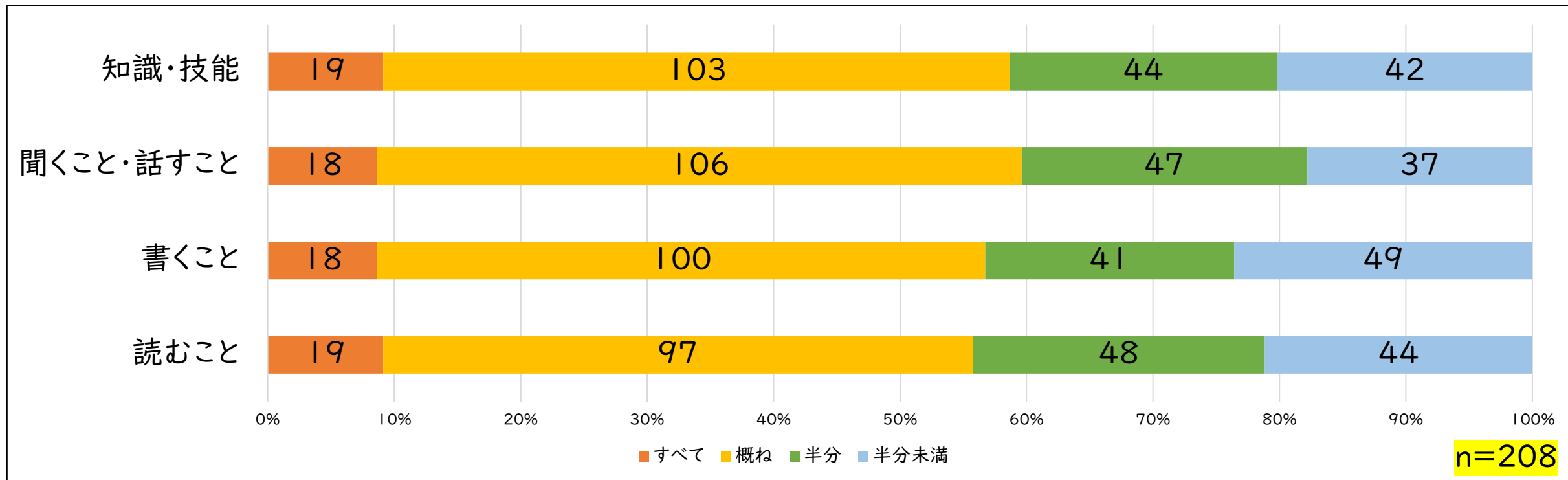
【指導計画の作成について】（「すべての内容を取り上げている」と回答した学校より）
すべての内容を取り上げるために計画している期間について（選択式）



学習指導要領が示している内容をすべて取り上げるのに、3年間かけている学校が多かった。

【指導内容について】

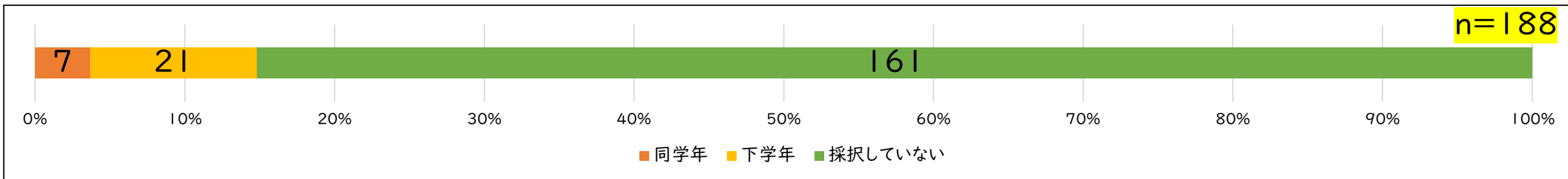
在籍期間中に学習指導要領の「内容」を取り上げている程度について(選択式)



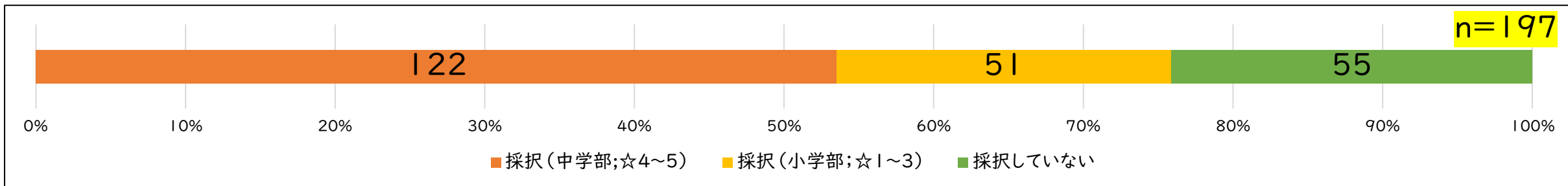
- ・「すべて取り上げている」「概ね取り上げている」との回答は、各内容・領域で56～60%であった。
- ・「すべて取り上げている」「概ね取り上げている」との回答が最も多い事項は「聞くこと・話すこと」で、最も少ない事項は「読むこと」であった。

教科書の採択について (選択式・複数回答可)

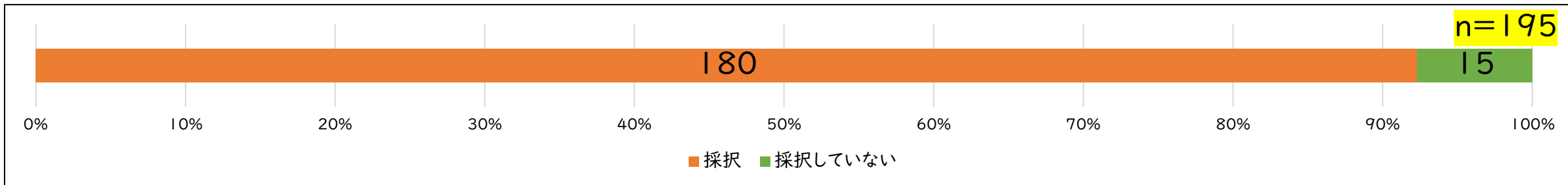
○検定済教科書(検定本)



○文部科学省著作本(星本)

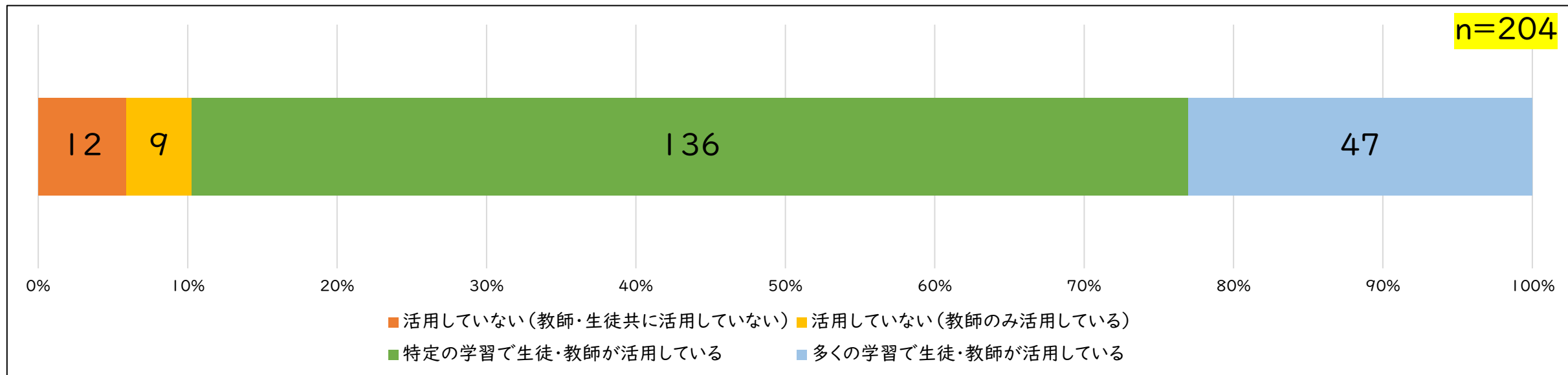


○学校教育法附則第9条の規定による教科用図書(一般図書; 附則9条本)



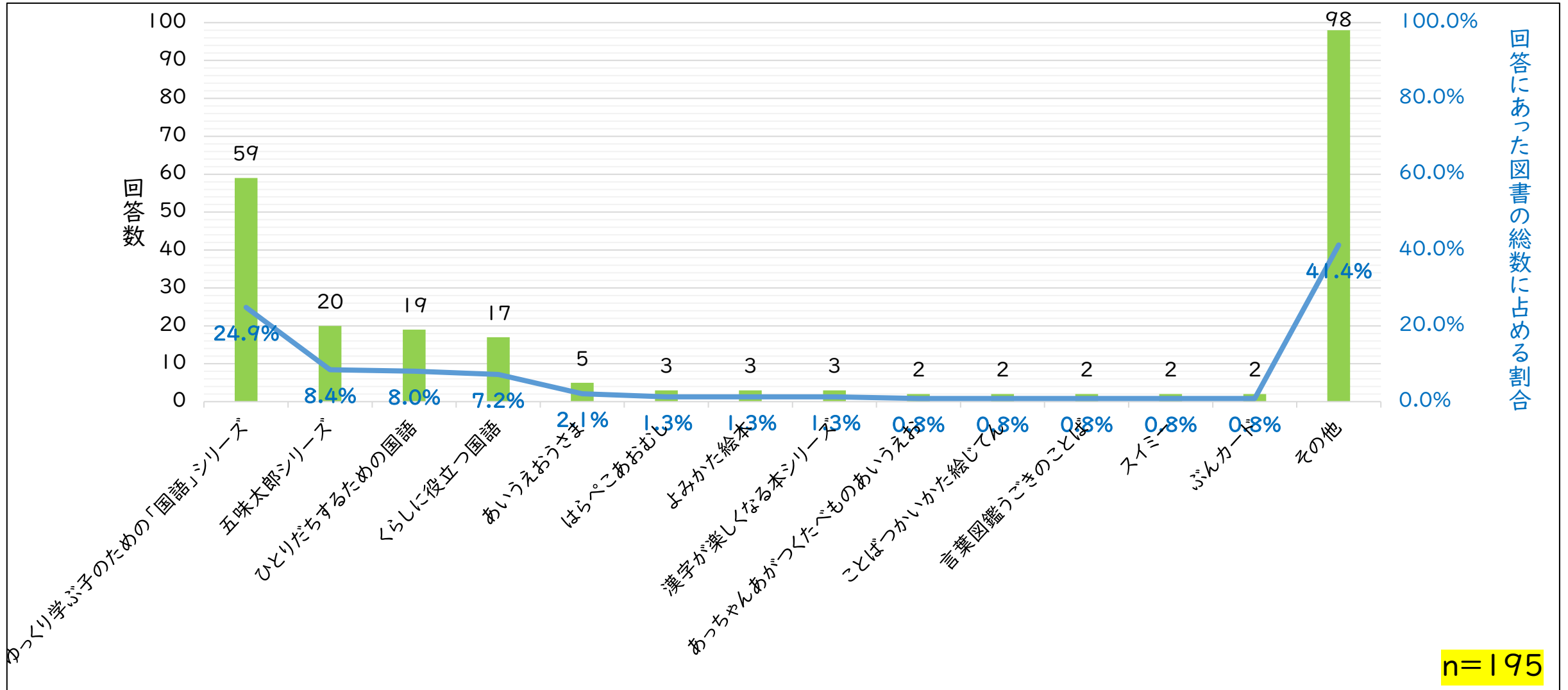
附則9条本を採択している学校は92%で最も多く、次いで星本を採択している学校が76%だった。星本の採択率は小学部より10ポイント高かった。

教科書の活用状況について (選択式)



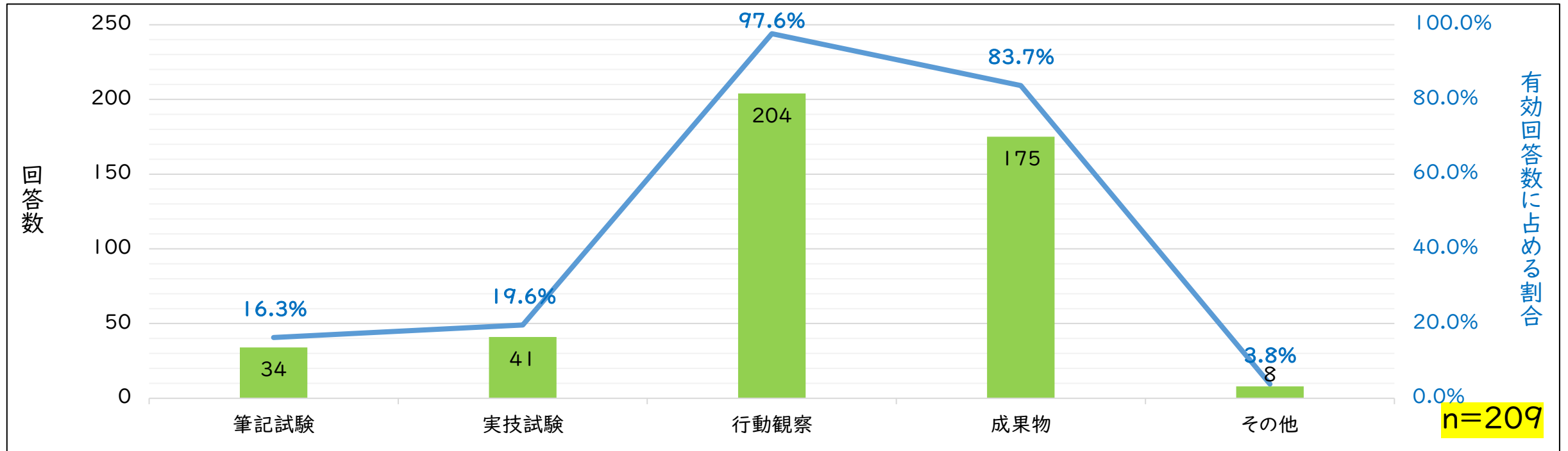
特定の学習で生徒が活用していると回答した学校が67%で、他の選択肢を大きく上回っていた。

附則9条本（一般図書）について （記述式・複数回答可）



採択数が上位（回答数2以上）の一般図書は12冊で、それらをすべて合わせると59%だった。「ゆっくり学ぶ子のための国語シリーズ」が全体の25%を占めていた。

学習評価の方法について (選択式・複数回答可)



その他・自由記述 (抜粋)

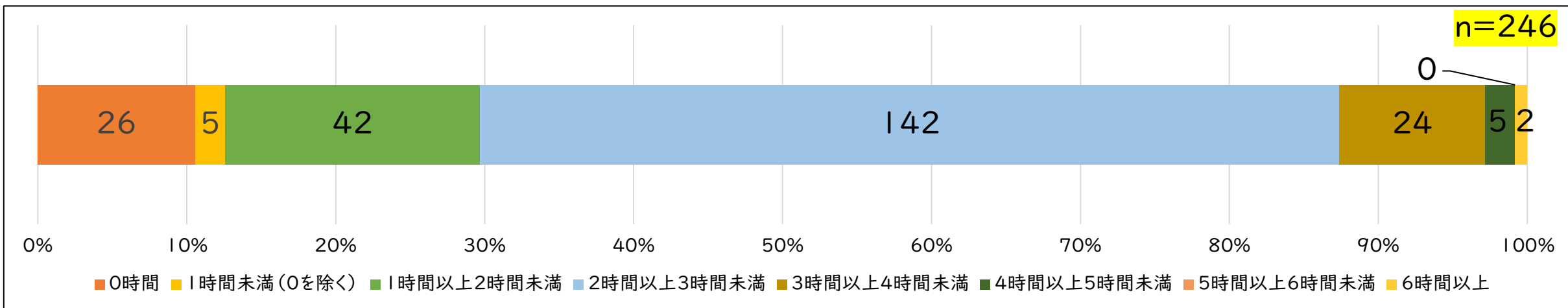
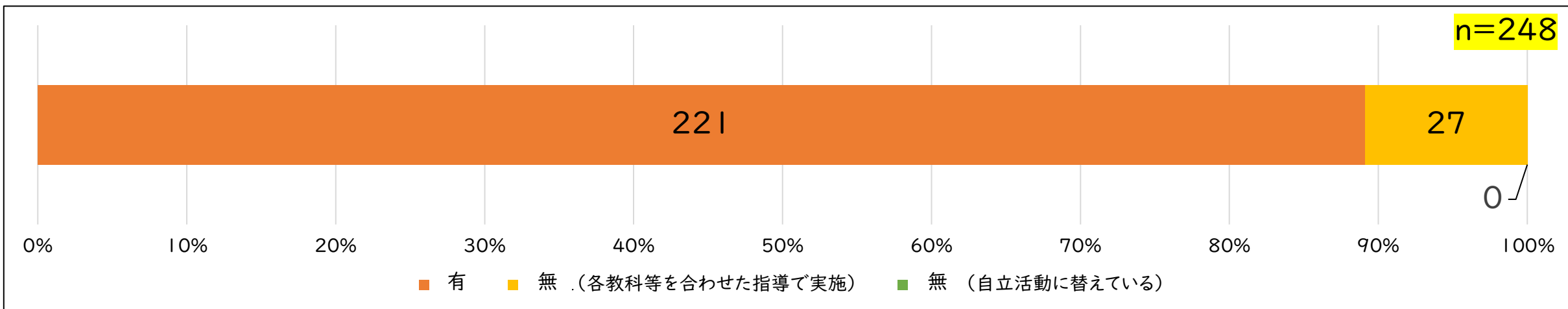
発表・発言	ICT端末
漢字検定	各担任による
チェックリスト	

行動観察による評価はほぼすべての学校で行われており、成果物による評価も80%程度の学校で行われていた。一方、筆記試験や実技試験による評価は15~20%であった。

高等部

【授業時数の配当について】

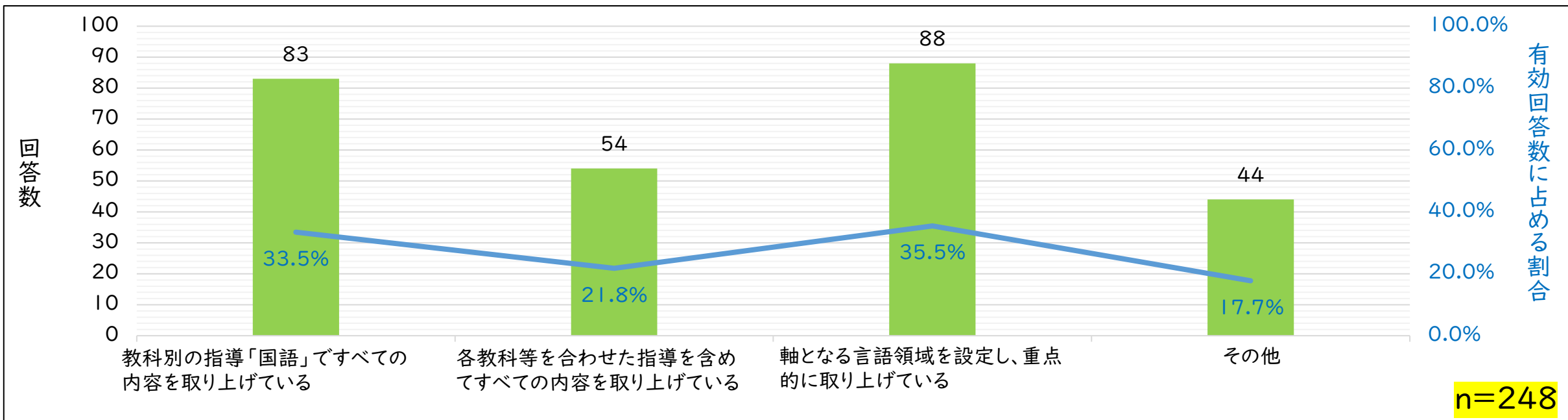
教科別の指導としての国語の実施の有無と配當時数について (選択式)



教科別の指導として国語を設定している学校は89%で、その配當時数の平均は1.80時間であった。

【指導計画の作成について】

年間指導計画を立てる際に工夫していることについて (選択式・複数回答可)

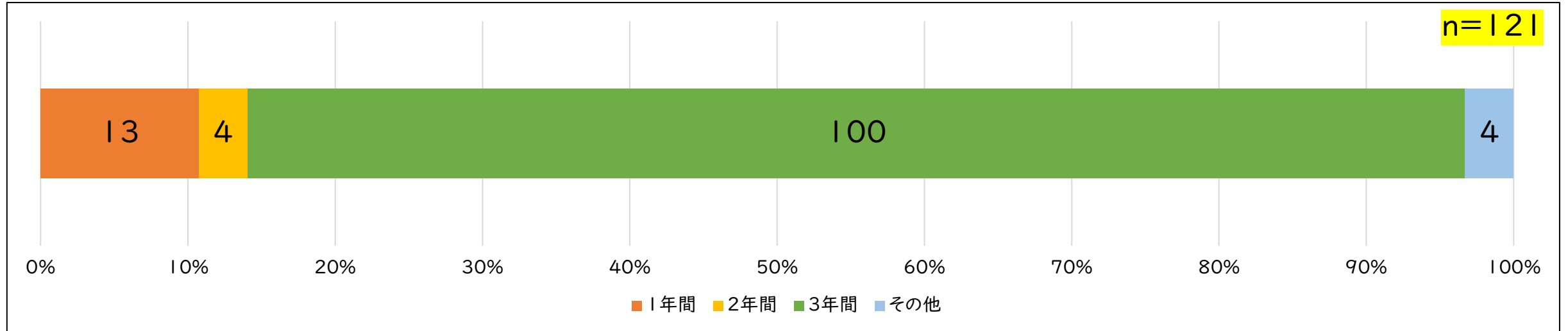


その他・自由記述(抜粋)

生徒の実態に応じて必要な内容を選び取り上げている	グループごとの実態に合わせて取り上げる内容を決めている
生徒の実態に応じたドリル学習・ひらがなの読み書き	偏りがないよう留意しながら、生徒の実態に応じて内容を選定している
学校として育む資質・能力と関連づける	年間で4領域を網羅できるように計画はしているが、内容については生徒の実態に応じて取り上げるようにしている
各教科等を合わせた指導、個別課題学習の中で実態に応じて取り組んでいる	各言語領域の内容のうち、職業生活に関わりの深い項目を精選し、年間計画に示している。実際には個別の指導がメインのため、さらに指導内容を個別に選び、授業を展開している。
内容の中から職業生活に求められるものを抜粋して指導している	

指導の形態を問わず、すべての内容を取り上げている学校が半数程度あった。一方、児童の実態に応じて(部分的に)内容を配列・組織している学校が半数程度みられた。

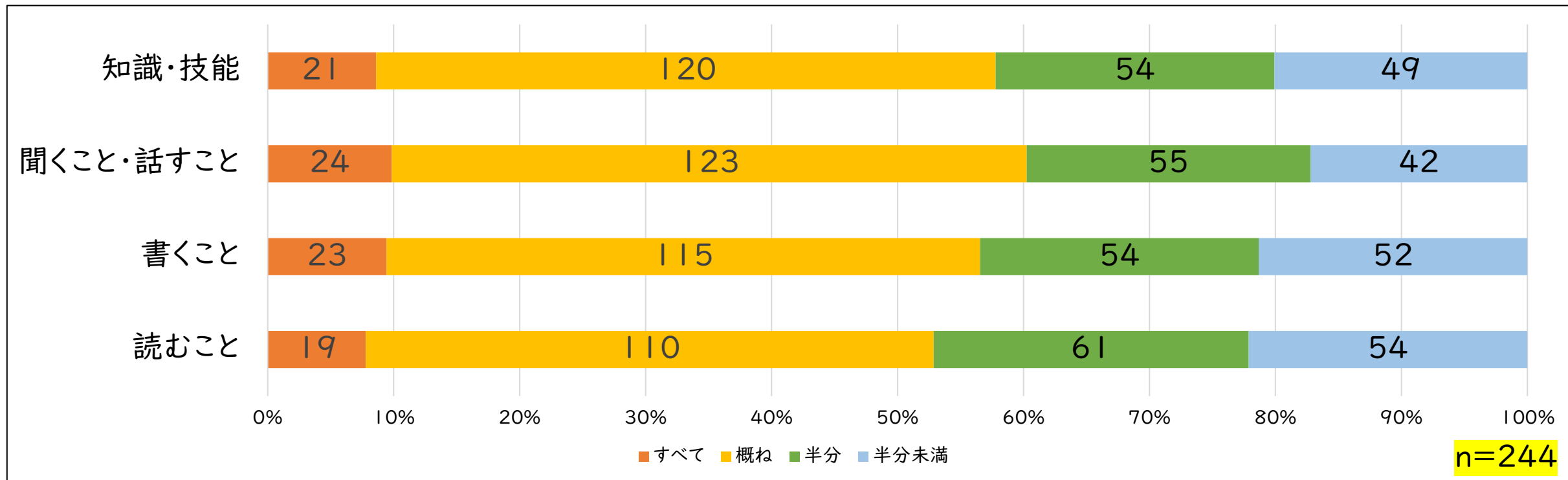
【指導計画の作成について】（「すべての内容を取り上げている」と回答した学校より）
すべての内容を取り上げるために計画している期間について（選択式）



学習指導要領が示している内容をすべて取り上げるのに、3年間かけている学校が多かった。

【指導内容について】

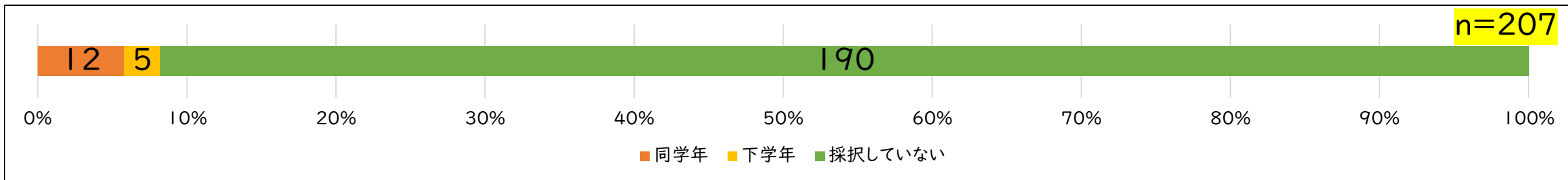
在籍期間中に学習指導要領の「内容」を取り上げている程度について(選択式)



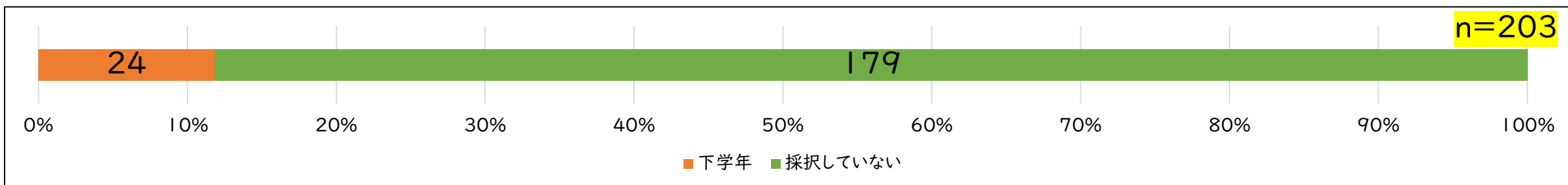
- ・「すべて取り上げている」「概ね取り上げている」との回答は、各内容・領域で53~60%であった。
- ・「すべて取り上げている」「概ね取り上げている」との回答が最も多い事項は「聞くこと・話すこと」で、最も少ない事項は「読むこと」であった。

教科書の採択について (選択式・複数回答可)

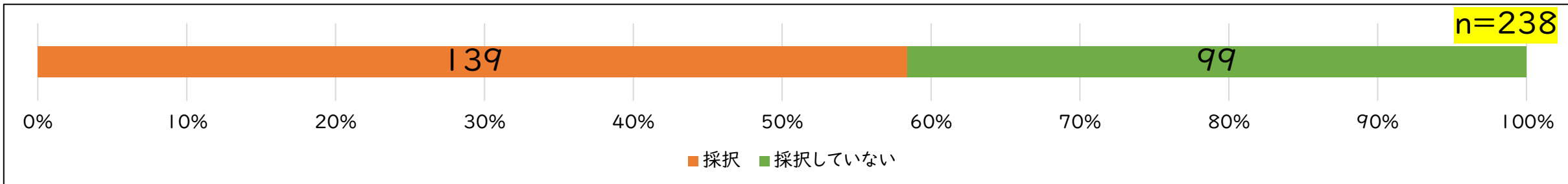
○小学校等検定済教科書(検定本)



○文部科学省著作本(星本)

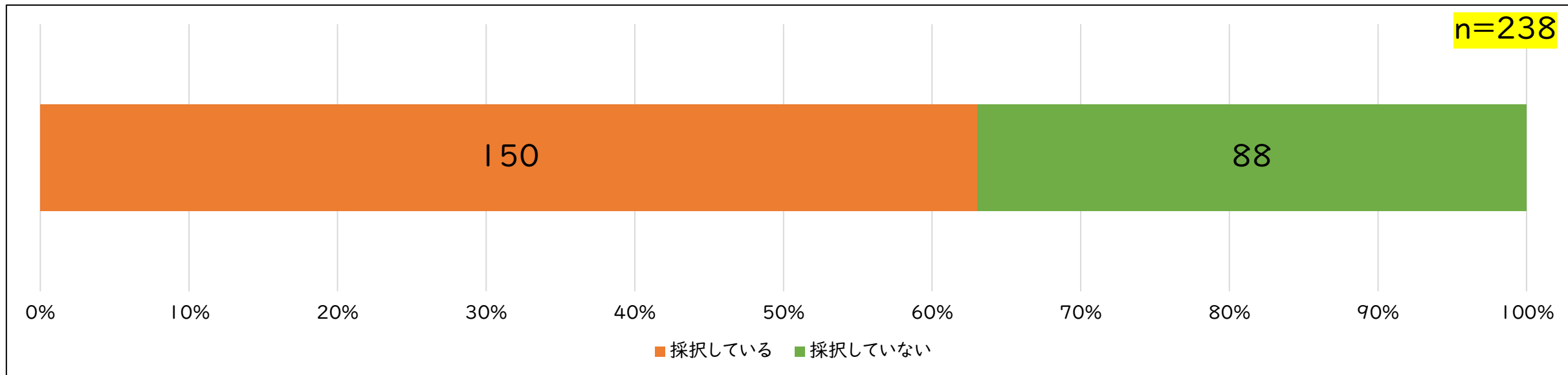


○一般図書



一般図書を採択している学校が58%で最も多かった。

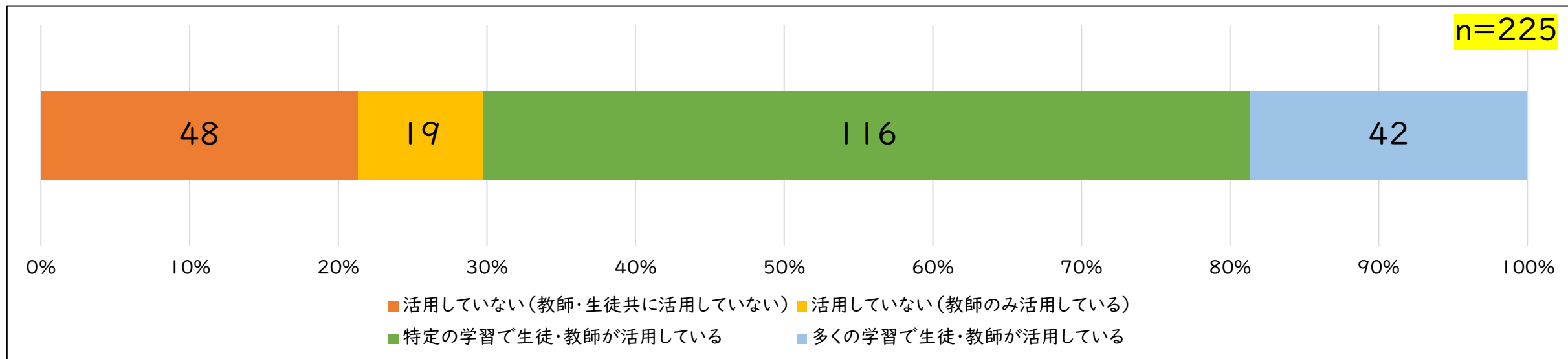
教科書の採択について



教科書として図書を採用している学校は88 (63%) だった。

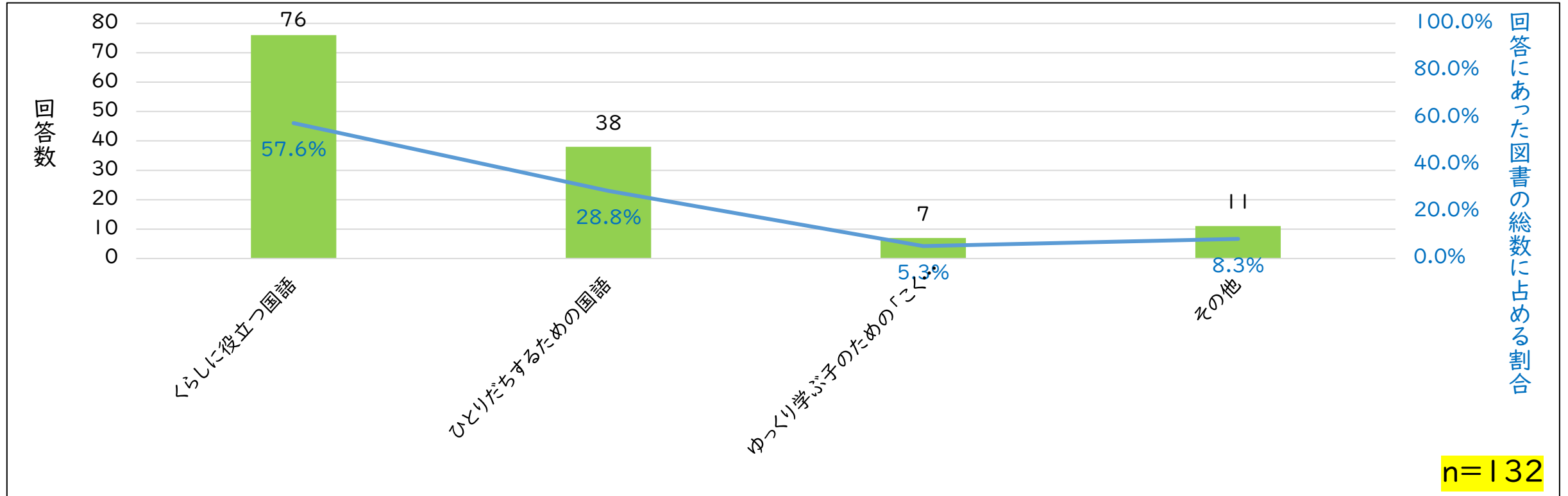
教科書を採用していないと回答した学校は小学部では0、中学部では2だった。

教科書の活用状況について (選択式)



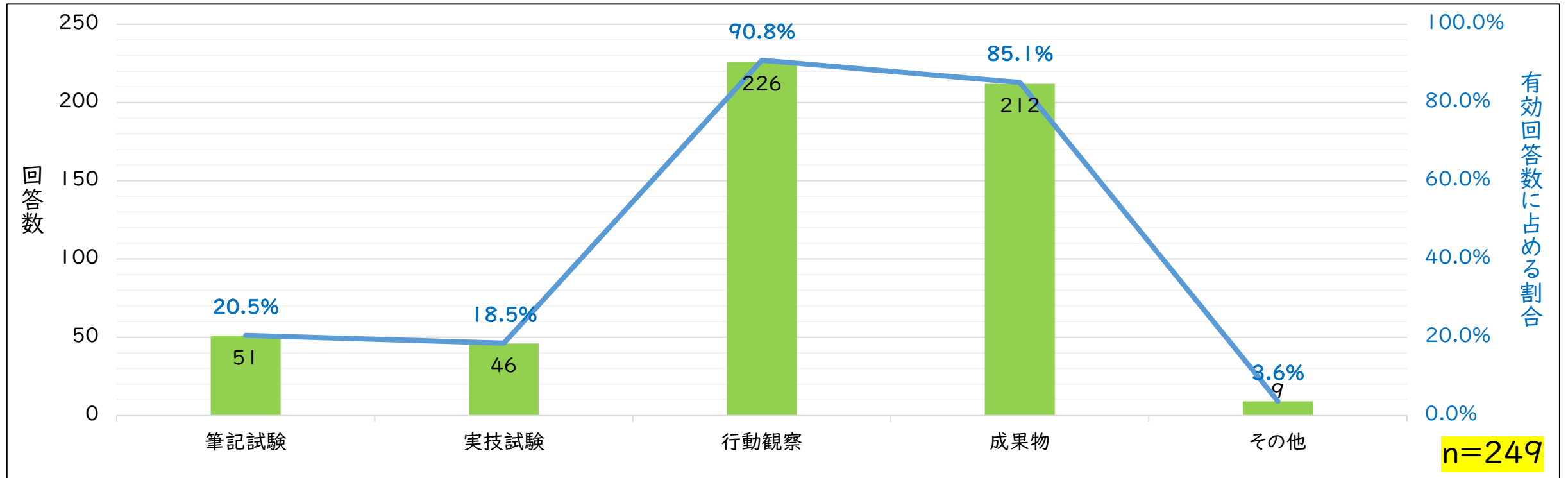
- ・特定の学習で生徒が活用していると回答した学校が51%で、他の選択肢を大きく上回っていた。
- ・活用していないと回答した学校が30%あり、小中学部と比べて高い数値を示していた。

一般図書について (記述式・複数回答可)



- ・採択数が上位3位の図書で、回答にあつた図書の総数の92%を占めていた。
- ・「暮らしに役立つ国語」が全体の58%を占めていた。

学習評価の方法について (選択式・複数回答可)



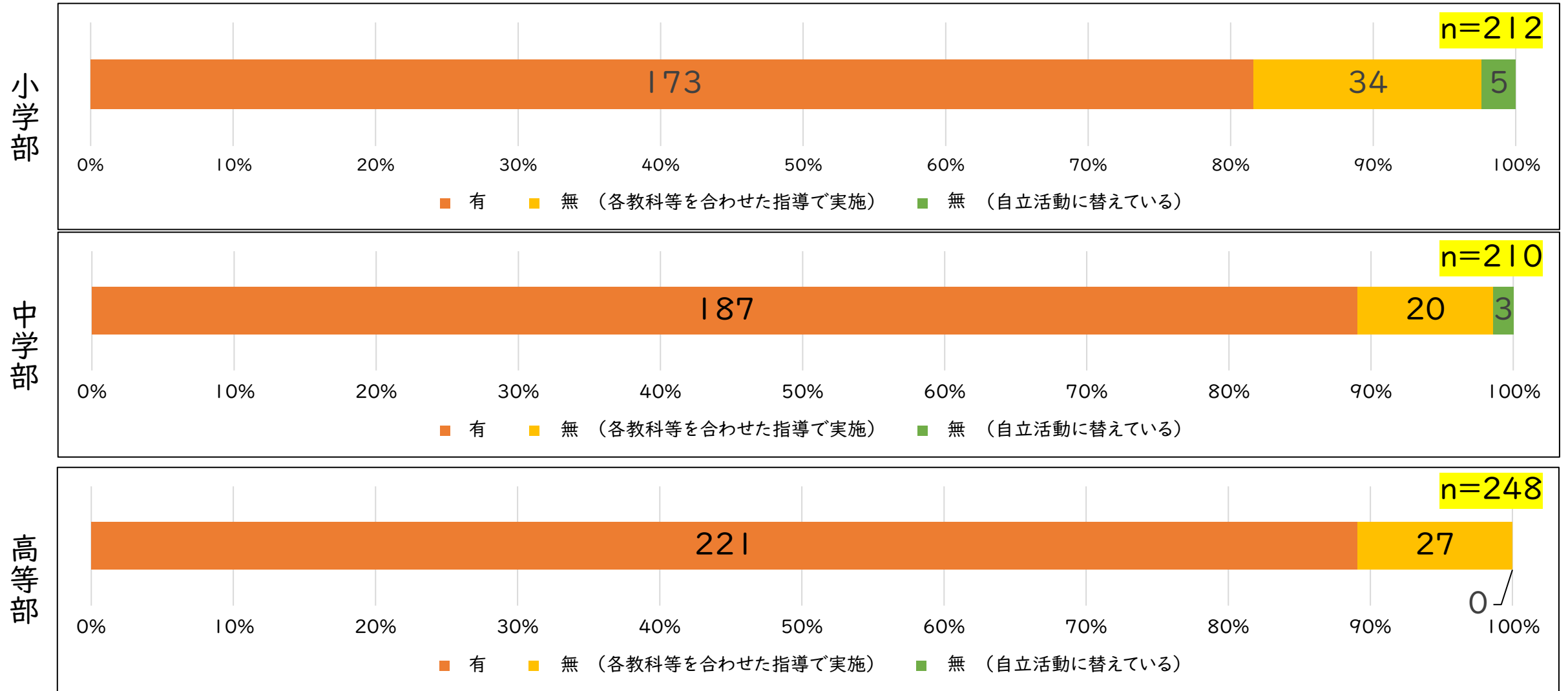
その他・自由記述

日頃の授業の様子と態度	課題
日々の学習の記録	小テスト
観点別評価に基づく行動観察	発言・発表
漢字検定	ICT機器

- ・行動観察による評価と成果物による評価はほぼすべての学校で行われていた。
- ・筆記試験や実技試験による評価は20%前後であったが、3学部の中では最も高い値となっていた。

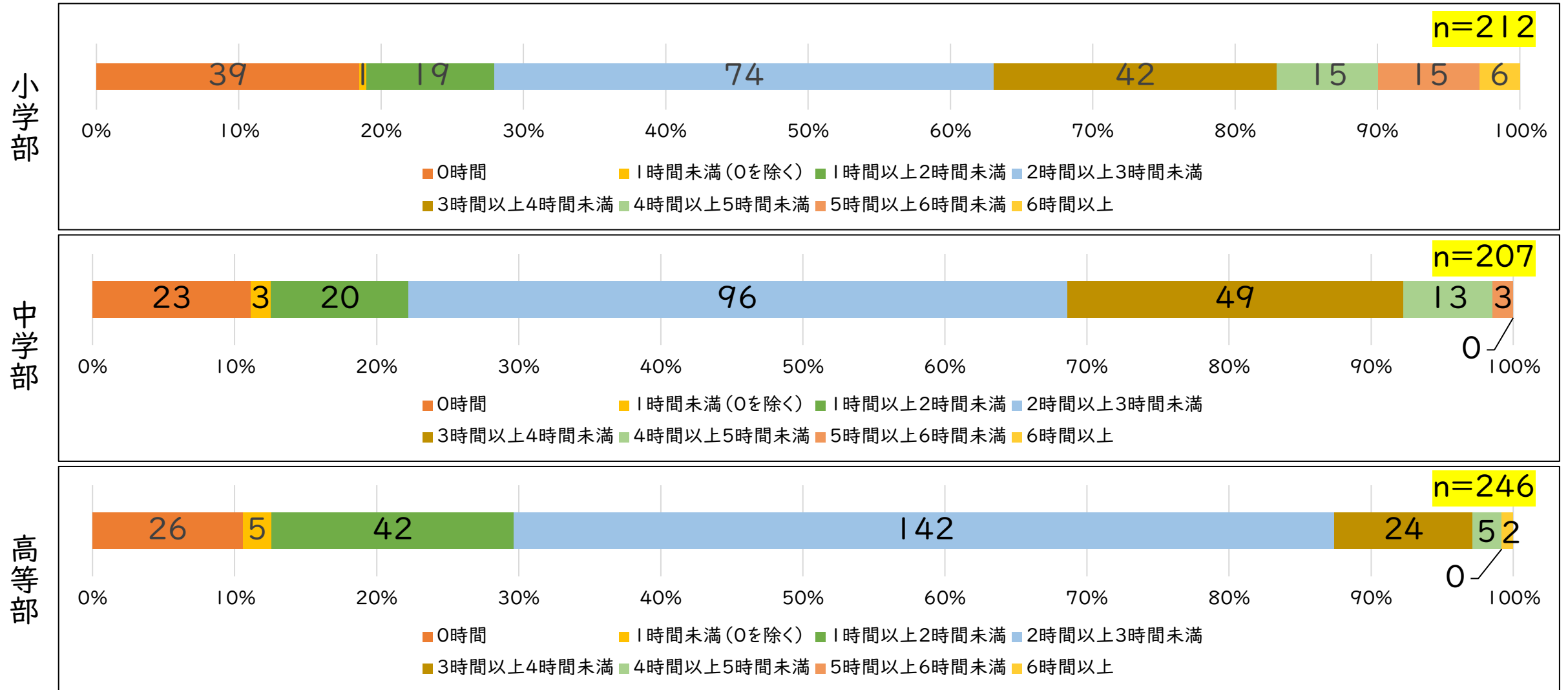
学部間比較(抜粋・再掲)

教科別の指導としての国語の実施の有無



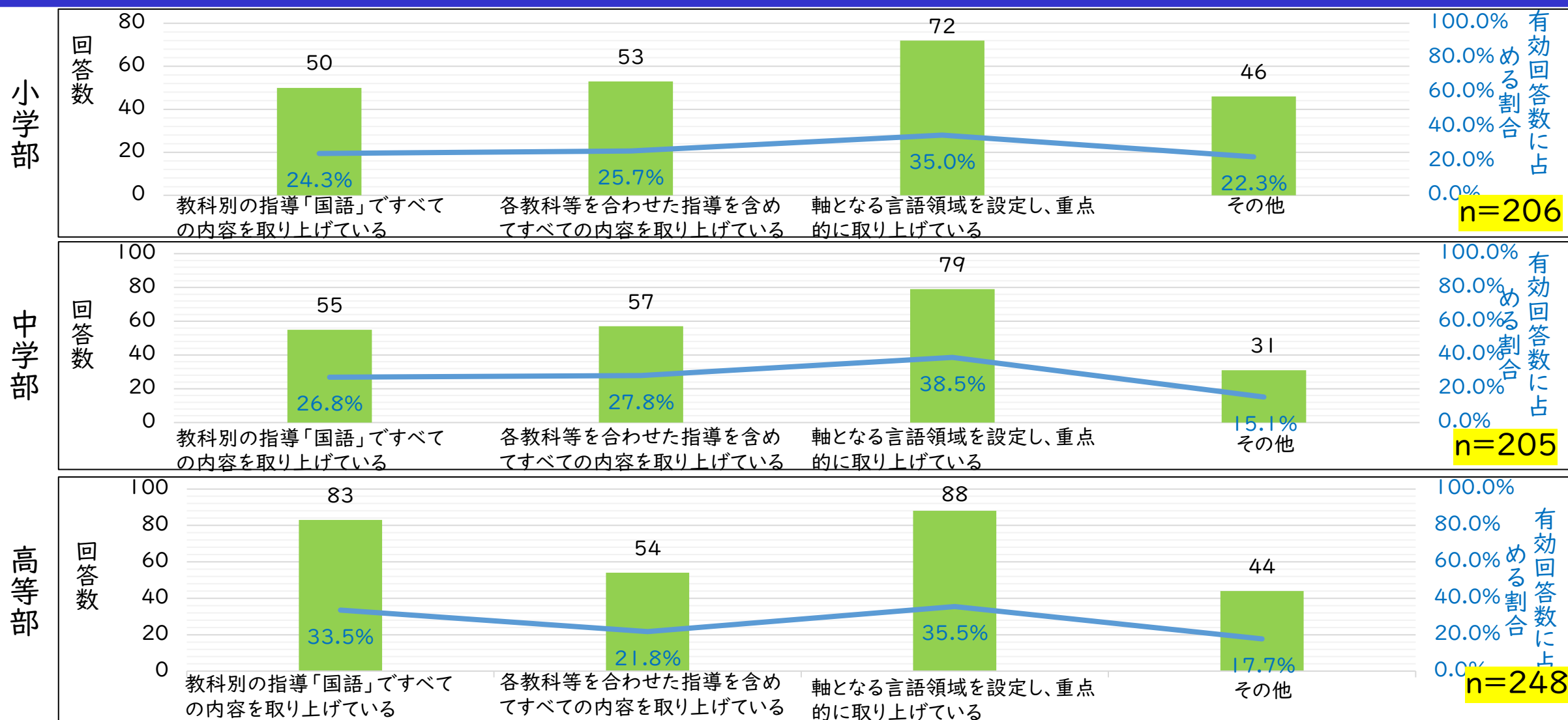
- ・すべての学部で教科別の指導として国語を設定している割合が高かった。
- ・小学部では国語を各教科等を合わせた指導として実施している割合が、他学部より若干高かった。

教科別の指導としての国語の配當時数



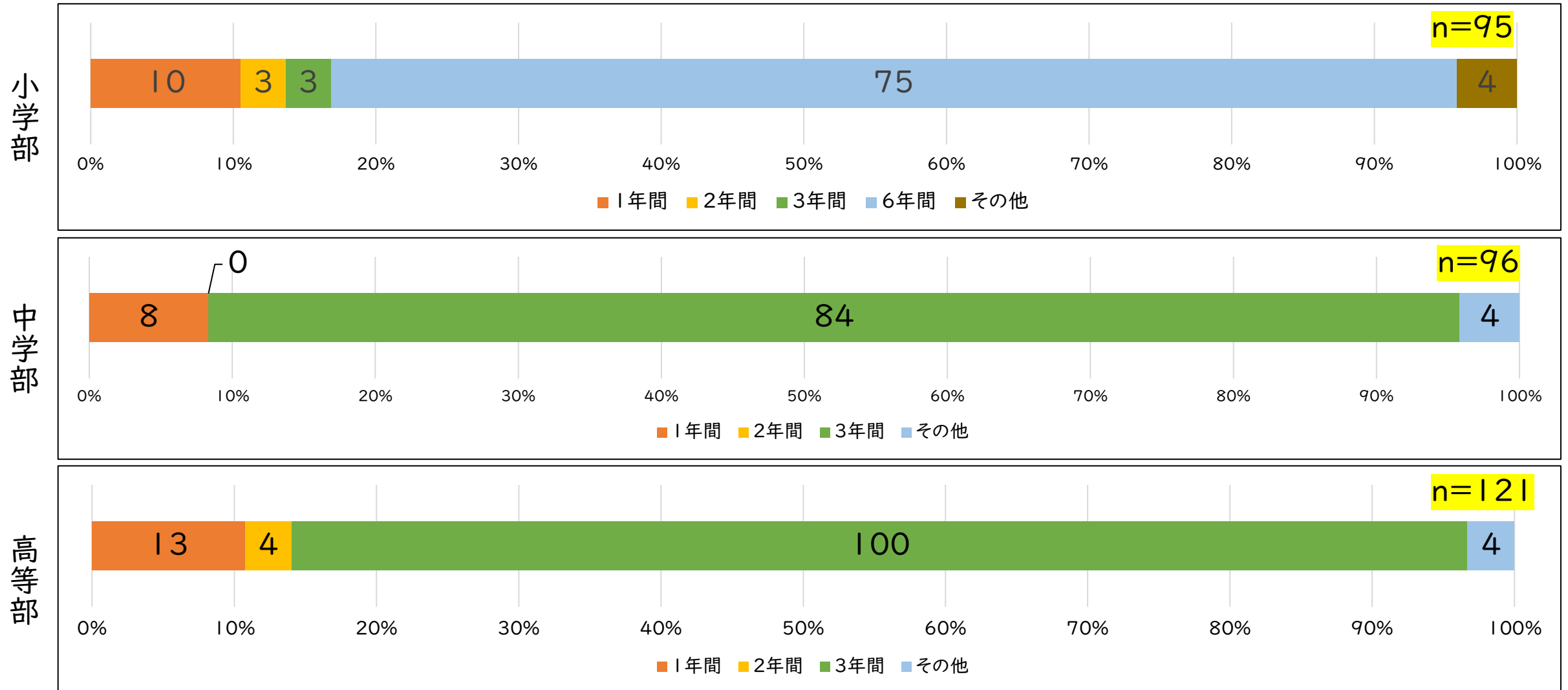
- ・すべての学部で最頻値は2時間以上3時間未満だった。
- ・学部が上がるにつれて、3時間以上の割合が減少し、平均値も減少していた。

年間指導計画を立てる際に工夫していること



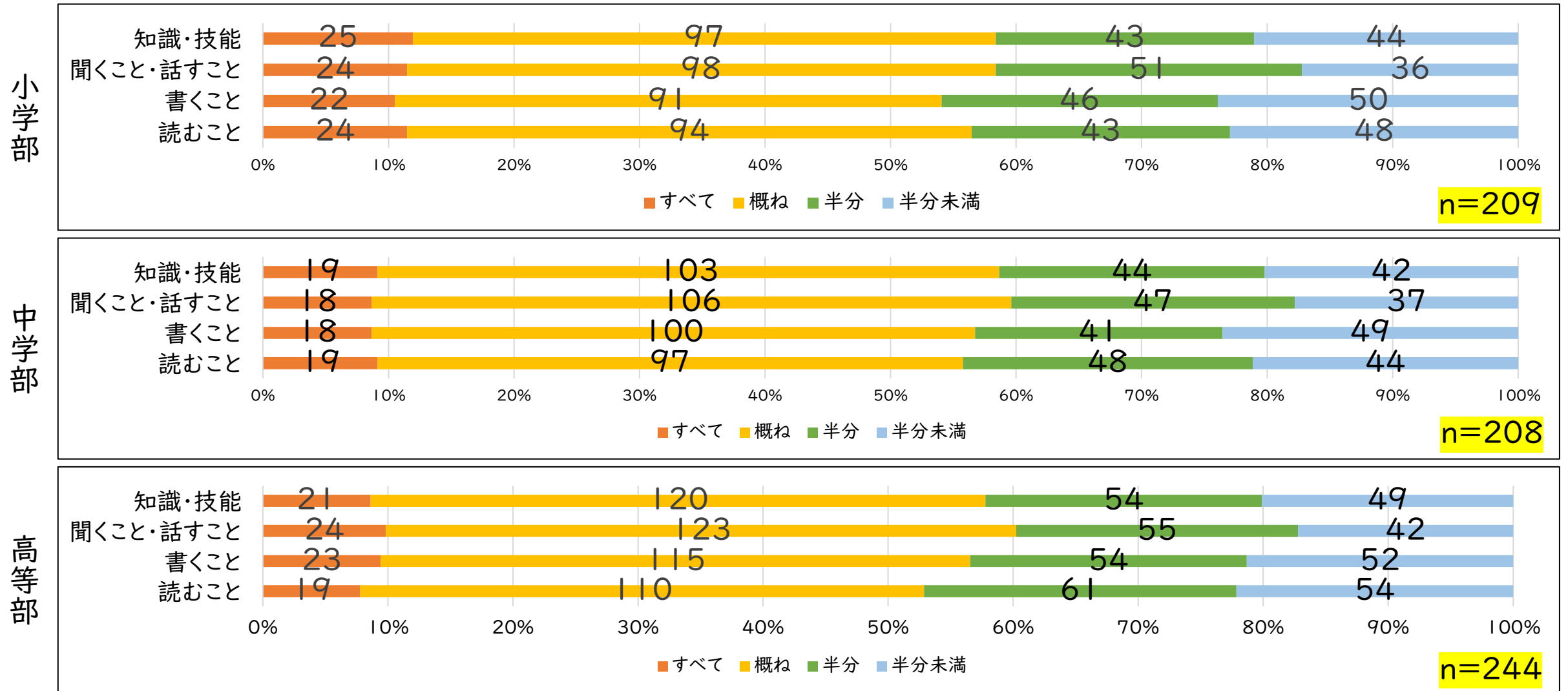
- ・すべての学部で「軸となる言語領域を設定し、重点的に取り上げている」割合が最も高かった。
- ・学部が上がるにつれて「教科別の指導「国語」ですべての内容を取り上げている」割合が増加していた。

すべての内容を取り上げるために計画している期間について



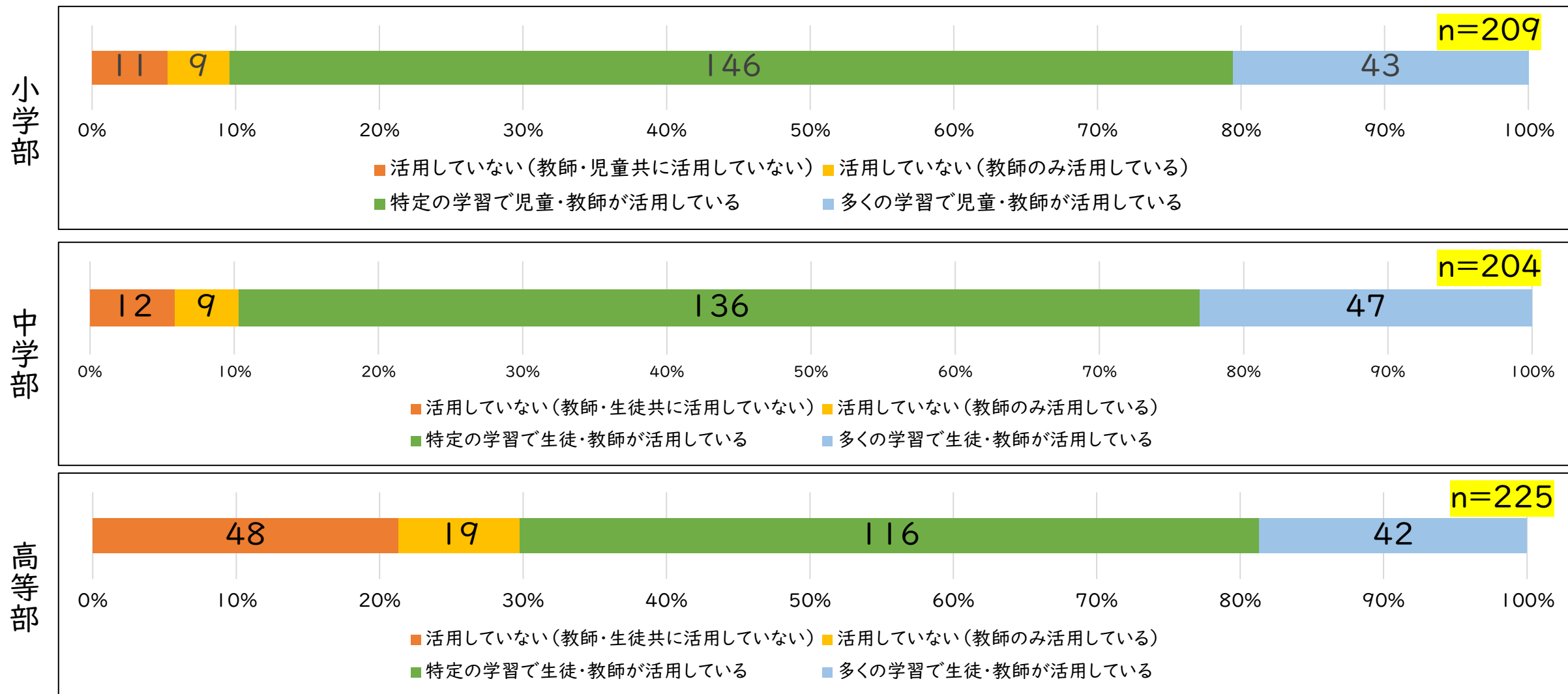
・すべての学部で、在籍期間の全部を使って学習指導要領に示されたすべての内容を取り上げる計画を立てていた。

在籍期間中に学習指導要領の「内容」を取り上げている程度について



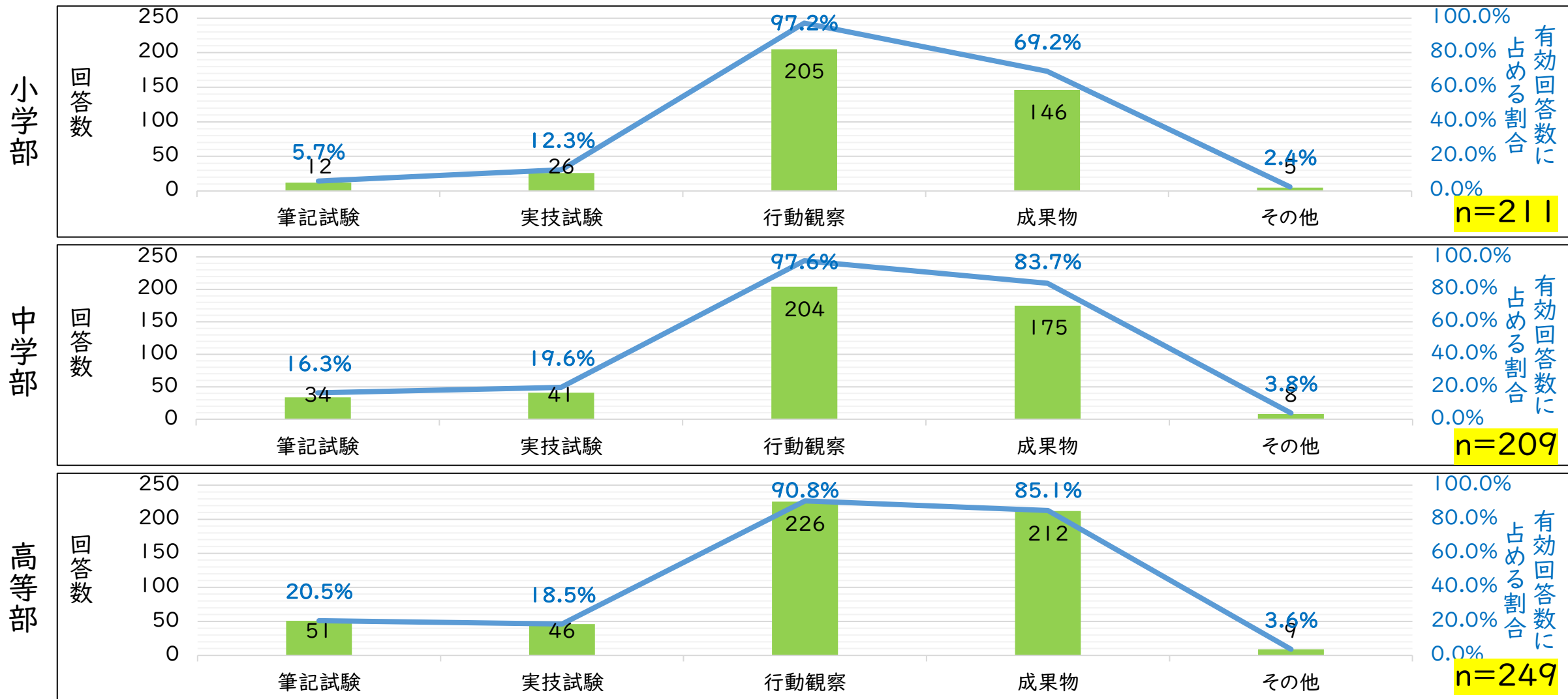
- ・すべての学部で「聞くこと・話すこと」の内容が最も多く取り上げられていた。
- ・内容の取り上げについては、小学部は「書くこと」、中学部・高等部は「読むこと」の割合が低くなっていた。

教科書の活用状況について



・教科書を「活用していない」とする割合が、高等部では高くなっていた。

学習評価の方法について



- ・行動観察による評価はほぼすべての学校で行われていた。
- ・学部が上がるにつれて、筆記試験と成果物による評価の割合が増加していた。